

## 仮設住宅などでのディアコニア報告書

2016年10月7日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

\*報告期間:2016年9月18日(日)～9月28日(水) (2016年第9次)

◇9月18日(日) 生鮮食品等仕入 横浜発 荷物搬入 (山元のぞみ教会)

◇9月19日(月) 仕込み

### **【1】南相馬市飯館自治会(南相馬市・飯館村民) 9月20日(火)**

- ・全村避難の飯館村民で、南相馬市に避難し、みなし仮設などに住んでおられる方々が対象。  
その方々の自治会(会長北原昇さん)からの招請で、4回目の開催
- ・飯館村から南相馬市に避難している方は415人(198世帯)いる(飯館村2016.6.1)。
- ・案内のチラシ(200部)は村役場から各世帯に発送して頂いている。(今回から飯館村専用のデザインを使用)
- ・皆さんに提供したのは、きみまるライブ(DVD)上映・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・水出しアイスコーヒー
- ・会場は、南相馬市原町区の石神生涯学習センター(サマリタンハウスから高速道路経由で46km、45分)。  
センター長始め職員の方も友好的で荷物の移動なども一部手伝って頂いている。
- ・車の相乗りやタクシーで来る方がほとんどで、台風のため雨模様だったが、前回(7月)より参加者が増えた。
- ・皆さんが自由に話し合う時間が毎回少ないので、今回から30分開始を早めた。
- ・出席されていた飯館村地域包括支援センターの方から、次回「口腔健康講話」を入れさせて頂きたいと申し出を受けた。避難先で村の人が集まる貴重な機会であって、村が村民の健康増進を図る機会にもなる。協力することにした。講師は、福島県医師会から派遣されとのこと。
- ・支援者は石川和宏
- ・福島県避難者支援課の要請で、今回から皆さんにアンケート(無記名)への記入を御願ひした。「被災者の皆さんの楽しい時間」(=共生)が目的の会だが、「被災者の生の声を行政に伝える役」も担えろと考えた。要旨・抜粋としてその一部を紙面で紹介する。



### **支援の結果**

- ・支援者を除く参加者38名(男性9名)他に食事に参加された方9名あり、総計47名
- ・ご飯24カップ 豚汁20リットル(今回から具材を変更した)。いつものことだが「完売」した。

### **皆さまからお聴きしたこと**

- ・村の人が集まるのは、ここも含め月1回しかないのでは、楽しみにしている。
- ・今回始めて出た。来てみるものだ。楽しかった。
- ・村の家は新しいのだが、解除になっても帰らない。
- ・20年は飯館村から除染した土(フレコンバック)がなくならない。



## 【2】南矢野目仮設住宅(福島市・浪江町民) 9月21日(水)

- ・この仮設は、福島市の北方市街地で、東北道福島飯坂 IC の近く。サマリタンハウスから約 70 km・1 時間 20 分
- ・浪江町生活支援課避難生活支援係に打診し、自治会長さんの了解があり実現した。
- ・昨年 7 月に続き 2 回目の訪問
- ・浪江町民の仮設は、町役場に送れば案内のチラシ配布・ポスター掲示を全て引き受けて戴ける。事前のPRは不可欠で、地元で常駐しないイベント開催者として、これは大変有り難い。
- ・建設戸数 208 戸、現住者は 126 世帯で、前回より 30 世帯ほど減少している。全員浪江町の方
- ・提供したのは、腹話術・DVD 上映(綾小路きみまろライブ)・昼食・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ
- ・支援者は、石川和宏 石川千鶴子(この日から合流)
- ・元気な自治会長さんがいて、お世話をして頂いた。

### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者 25 名(男性 3 名・子供 1 名)
- ・庖丁研ぎ 15 世帯 15 本
- ・ご飯 18 カップ 豚汁 20 リットル

### 皆さまでお聴きしたこと

- ・避難指示があり浪江から最初は津島に行った。5 日から 1 週間で帰れると思っていた。
- ・体育館を 3 ヶ所、その他 8 ヶ所を転々とした。
- ・当初は、食事がお握り半分ということもあった。
- ・学校に避難した。体育館と教室では、出される食べ物が違っていた。
- ・川俣町に親切な人がいて、自宅に泊めてくれた。今でも交流がある。
- ・夫は漁師をしていたが、寝たきりになり 8 年前に亡くなった。夫がそのままだったら津波から逃げ遅れたと思う。
- ・原発の賠償金は、家族の絆を壊す。
- ・地元の学校の運動会で浪江の子供が「10 万円頑張れ」と言われた。(10 万円:精神的損害賠償の一人当たりの金額)
- ・原発事故後は離婚が増加した。再婚も多い。



◇9月22日(木) 買い出し・仕込み

### 【3】寺内塚合第2 仮設住宅(南相馬市・小高区民) 名古屋岩の上教会と合同で開催 9月23日(金)

- ・南相馬市小高区から避難した方々が住む仮設住宅で、自治会(井島会長)からの要請があり訪問(開催)した。5回目の訪問
- ・名古屋岩の上教会(ディアコニア室)と5月に続き今年2回目の共同開催。
- ・案内のチラシ配布・ポスター掲示は、自治会に引き受けて頂いた。
- ・172戸建設で160世帯在住している。井島会長は、住民の交流促進に心を砕いていられる。
- ・奉仕者は、杉山誠兄(医師) 菊池千春執事 岡本真理執事(名古屋岩の上教会) 石川和宏 石川千鶴子
- ・提供したのは、医療相談・DVD上映(きみまるライブ)・ミニボード制作・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・水出しアイスコーヒー
- ・名古屋岩の上教会の協力があり、盛りだくさんのプログラムになった。ほとんどの方が最初から最後まで参加された。何人かの方が、開始1時間前から集会所に来られた。
- ・ミニボード作り(写真参照)の板には、英語でコリントー13章部分が押印されている。裏面に貼り付けられるように日本語訳(\*)を別紙でお渡ししたが、皆さん興味深そうに読んでおられた。  
(\*:愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。)
- ・杉山医師の話では、ゆっくり時間を掛けて諸状況を聞き取ると病気(の原因)が分かることに繋がるということ。日本の診察時間の平均は、2/3が10分未満で、3分未満も20%近い(厚生労働省)。日本プライマリ・ケア学会誌によれば、日本国内の診察時間の現状は、平均で5分前後(2012年)。今回は、被災者にとって貴重な場を提供することが出来たと思う。
- ・岩の上教会の皆さんは、集会後にご当地土産のきしめん(乾麺)を、激励のメッセージを付けて全戸配布された。

#### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者23名(男性4名) 支援者5名 合計28名「今日はお出掛けしている人が多い」と言われたが、たくさんの方に参加して頂いた。
- ・ご飯24カップ 豚汁20リットル
- ・医療相談は、6名。順番待ちが出るほどで、お役に立てました。
- ・ミニボード作りは、食事後でしたが、男性を含め、ほぼ全員が残り、真剣に取り組んでいました。

#### 皆さまからお聴きしたこと

- ・(避難指示解除になったが)戻った人は10%はいないと思う。(小高区民は10,700人 下記「小高区の帰還者数」参照)
- ・帰っても何を作ればいいのか… 作っても売れない。
- ・今一番困っているのは食料品の買い出し。車がないので片道40分歩き、帰りはタクシーを使う。雨の日が続くと冷蔵庫が空っぽになる。
- ・心療内科の治療を受けている。仮設の中での人間関係も大変だ。
- ・小高の家の片付けに行ったら、家の中にハクビシンの死体があった。後始末が大変だった。
- ・2018年4月までこの仮設が存続することが決まっている。それまでにリフォームして小高に帰ろうと思っている。フレコンバックが家の近くにある。





### 小高区の帰還者数

南相馬避難指示解除から1カ月、リフォーム数年待ちで帰還わずか 500 人(福島民報 2016/8/11)

福島第一原発事故に伴う南相馬市の居住制限、避難指示解除準備両区域が解除されて12日で1カ月となる。避難対象だった約1万700人のうち自宅に帰ったのは市の推計で約500人。市によると7月末時点で、旧避難指示解除準備区域に戻ったのは198世帯393人、旧居住制限区域は2世帯6人。

### **【4】小池小草仮設住宅(南相馬市・小高区民) 名古屋岩の上教会と合同で開催 9月24日(土)**

- ・南相馬市小高区から避難している方々仮設住宅で、昨年1月・今年1月に続き3回目の訪問
- ・南相馬市社協に仲介をして頂いた。
- ・88戸建設で70世帯在住している。鈴木忠之自治会長は、明るい人柄で、親切にご対応頂いた。
- ・案内のチラシ配布・ポスター掲示は、自治会に引き受けて頂いた。
- ・名古屋岩の上教会(ディアコニア室)との共同開催
- ・奉仕者は、杉山誠兄(医師) 菊池千春執事 岡本真理執事(名古屋岩の上教会) 石川和宏 石川千鶴子
- ・提供したのは、医療相談・DVD上映(きみまろライブ第3集)・ミニボード制作・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ
- ・ここでも名古屋岩の上教会の協力があり、盛りだくさんのプログラムになったが、中座することもなく、皆さん楽しんでおられた。
- ・集会後に、ミネラルウォーターをお届けした(2リットルペットボトル492本)。費用は、米国改革派教会 Vacation Bible School (VBS)の子供たちからの献金で、先月に2ヶ所目。この仮設も水道の水源は「真野ダム」である。(環境省の資料によれば、真野ダム湖底のセシウム濃度は、26,859ベクレル/kg 毎日新聞 2016.9.25)



### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者 29名(男性4名)
- ・ミニボード作り参加者 24名 医療相談8名
- ・庖丁研ぎ 17世帯 17本
- ・ご飯 24カップ 豚汁 20リットル



## 皆さまからお聴きしたこと

- ・成田山新勝寺の副住職などが年2回彼岸に供養に来てくれる。また、毎年千葉県産のサツマイモを2トン車で届けてくれている。



◇9/25(日)買い出し・仕込み 山元のぞみ教会

### 【5】伊達東仮設住宅(伊達市・飯館村民) 9月26日(月)

- ・全村避難の飯館村(全員が原発被災者)の仮設住宅。昨年9月に続き3回目の訪問。
- ・126戸建設で80余世帯在住している。
- ・サマリタンハウスから一般道経由で1時間30分 果樹畑が多い農村にある。
- ・前回訪問から時間が経っている仮設として選び、村役場生活支援課に仲介して戴いた。長谷川花子管理人にお世話になった。
- ・飯館村民の仮設は、村役場に送れば案内のチラシ配布・ポスター掲示を全て引き受けて戴ける。
- ・提供したのは、腹話術・DVD(綾小路きみまろライブ第5集)・自家焙煎カフェ(ケーキ・菓子付き)・昼食(豚汁)・水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ。
- ・奉仕者は石川和宏、石川千鶴子
- ・8月には入手できた新米がやっと手に入り、9月はこの仮設から新米のご飯に出来た。
- ・改革派中部中会が集めて送って下さった和服(布地)を段ボール一箱差し上げた。飯館村松川第1仮設で需要があり、そこに届けて戴くことになった。



### 支援の結果

- ・支援者を除く参加者 19名(男性1名)
- ・庖丁研ぎ 8世帯 9本
- ・ご飯 18カップ 豚汁 10リットル

## 皆さまからお聴きしたこと

- ・家の除染は、未だ1回もしていない所もある。
- ・除染はポイントだけで、線量は高い。
- ・女性の一人暮らしが多い。ほとんどが農家なので、畑が出来ないのでは村に帰っても仕方がない。
- ・近くに家を購入した人でも仮設で寝るといふ人もいる。
- ・仮設の住民は、みんな家族のように暮らしている。
- ・年寄りには年金収入があるが、若い人にはそれがない。村に帰っても仕事が無いので収入もない。
- ・仮設の住民の移動はほとんどない。住民同士の結びつきが強く、その点帰還後の生活に不安がある人が多い。



## **【6】塩沢農村広場仮設住宅(二本松市・浪江町民) 9月27日(火)**

- ・浪江町から二本松市に避難している方々の仮設住宅で、昨年3月以来2回目の訪問
- ・建設戸数98戸、現在の居住者は25世帯。
- ・二本松市街から車で10分くらいのかかなり辺鄙な所にある。サマリタンハウスから約100km、片道2時間。
- ・「永らく訪れていない浪江町の小さい仮設」から選び、町役場に仲介して頂いた。
- ・皆さんに提供したのは、腹話術・きみまるライブ(DVD)上映・昼食(豚汁)・自家焙煎コーヒー(ケーキ・お菓子付き)・水出しアイスコーヒー・庖丁研ぎ
- ・支援者は、石川和宏・石川千鶴子
- ・岩の上教会が南相馬で配った残りのきしめん(乾麺)を、皆さんにお渡しした。残りはひと束もなかった。

## 支援の結果

- ・支援者を除く参加者12名(男性4名) この内の4名が原発から7km圏の居住者
- ・庖丁研ぎ11世帯14本 ご飯18カップ 豚汁10リットル
- ・「居る人はほとんど出てきた」とのこと。
- ・生後2ヶ月の赤ちゃんと幼児が母親に連れられて全時間参加した。年少者の新記録。(過去の最高齢者は103歳で、一世紀以上の年齢層になる)



### 皆さまからお聴きしたこと

- ・妻は津波で流された。警察も自衛隊も(放射能で)逃げていて、(遺体が)見えていたのに収容出来なかった。
- ・後日収容された時は、コンクリートの床に置かれ、ホースで水洗いされた。
- ・原発から避難しても、津波で流された家は「自然災害」なので、東電から補償はされない。土地は買い上げてもらえるが値段は安いらしい。
- ・除染した土を置く所はない。仮置き場は40年後も無くならないだろう。
- ・間もなく復興住宅に移るが、電化製品・カーテンその他でお金が掛かることが心配だ。また、転居したら回りは知らない人ばかりなのでそのことも不安だ。
- ・浪江の時の家族は、今3世帯に分かれて暮らしている。私は一人。いわき市にいる息子が週1回来てくれていたが、この頃は2週に1回のこともある。仕事が大変なのだろうが、不安だ。



◇9月28日(水) 太陽生命(厚生財団)サマリタンハウス来訪 午後横浜へ

### **【7】まとめ**

- ・出会った方々 150名(内男性24名) 医療相談14名 庖丁研ぎ52世帯56本
- ・台風プラス秋雨の毎日だったが、イベントに支障は無く、多く被災者にお会いできた。また、仮設住民が減少する中、前回訪問より多いか前回並み方にお出で頂いた。要因を挙げるとすれば、イベントの中身、これまでの実績、チラシなど宣伝方法の工夫、役所・社協の応援が考えられる。
- ・避難者の環境や仮設住宅の様子は、時が経つにつれ少しずつ変化もしているが、「苦境」の本質は変わっていない。その中で、避難指示解除や仮設住宅入居の期限が刻々と迫ってきて、それが新たなストレスになっている。
- ・今回も皆様の祈りに始まる支援の数々があつて、神様のお守りを実感した。ここでもお礼を申し上げたい。改革派中部中会の皆様から手作りのクッキーを大量に頂き、参加者全員にお渡した。横浜長老教会から支援の献

金を頂いた。改革派中部中会ディアコニア支援委員会から支援物資(米)購入費用として10万円頂いた。おおよそ250kg買える。年末に川内村の仮設住宅に届ける予定。

**今後の支援予定:10月 10月18日発～10月29日戻り(2016年第10次)**

- ◇10/19(水)旧平石小学校(二本松市・浪江町民)
- ◇10/20(木)高見町第1仮設住宅(南相馬市・小高区民) 午後に飲料水全戸配布
- ◇10/22(土)寺内塚合第2仮設住宅(南相馬市・小高区民)「芋煮会」(協賛)
- ◇10/24(月)大野台第6仮設住宅(相馬市・飯館村民)
- ◇10/25(火)社協「いきいきデイサービス」(南相馬市・小高区からの避難者)
- ◇10/27(木)石神第1・第2(本宮市・浪江町民)
- ◇10/28(金)貝山仮設住宅(三春町・葛尾村民)